

## 家庭学習応援教材

松永澄夫「価値・意味・秩序」を読む

上智大学 法学部・外国語学部 2012 過程の演習 新国語問題集アシスト【現代文編】

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

観光客がフィジーに降り立つと、海、街の建物、交差点の信号が目に入る。海は仮に無人島でも変わらぬままの自然であろう。建物は住む人々の生活を反映したもので、観光客はその佇まいにフィジーの社会や文化を感じるであろう。けれども、屋根の色遣いに或る感慨を覚えても、一時的客であってフィジー社会の成員ではないゆえに、屋根の色に宗教に関わる意味があることを知らずに済む。あるいは、知ったとしても、それらの建物に自分が入る機会があった場合に自分がどう振る舞えばよいか分かるわけではない。分かるには、社会の内部に入って諸々の価値が織り成す体系のさまざまなニュアンスを嗅ぎ分けることができるようにならなければならない。信号はどうかと言えば、旅行者も信号の赤や青の意味はすぐに分かるし、また分かるのでなければ困る。

信号の色とその色の機能は万国共通だ、ということだろうか。いや、重要なのは、信号の意味の働き方である。信号は明解な、手続きと言ってもよい機能に徹し、人々の行動を制約し導くべく制定された意味を担っている。信号のお蔭で人々の行動は秩序だったものになる。けれども、この秩序は確かに社会秩序の一つを成しはするが、表層的なものと言ってもよい。別の言い方をすれば、こうである。信号機の設置は、車の普及や信号の設置・運用コストを負担できる社会の経済力等を背景にして初めてなされ社会の有りようから切り離せないが、そうだとしても信号の色の意味が関わる円滑な交通という価値と秩序は、それだけを取り出しても明確な内容をもつ。その内容は単純なルールであり、だから人は簡単にマスターし得る。フィジーの住人でない観光客も信号の色が意味するところに従って易々と秩序を乱さない適切な行動が取れる。そして、その点で便利なものであるが、同時に、従うことを人に強制するものでもある。

ただし、「単純なルール」と言ったが、実は信号を設置する側からすれば、そこには守るべき複雑なルールがある。設置する場所の交通量、信号機の規格、関わる行政組織の持分等。ただ、これらは制度を管理する側の専門家が弁えていればよい。そして、これら複雑なルールと人々が信号に従って通すべきという単純なルールの側と両方を引くくめて制度と言ってもよい。制度の目標はできる限り明確な内容の秩序を手続きの構築できるようにすることにある。屋根の色が関わる文化の総体が曖昧なのと対比的である。

さて、信号による交通の円滑化という表層的なものを話題にするところから始めたが、一つひとつはそれとして明確な輪郭をもつ小さな制度も、結局は複雑で巨大な制度の断片でしかあり得ない。信号機設置の社会背景に言及したが、そこにも、道路の建設、保守・管理、費用負担のための税制等、制度的構造物がある。そして、制度は細部についてはともかく総体としては人々が簡単には変更しがたい人々の行動の枠組みとして機能する。この枠組みに関して重要なのは、枠組みは人によって違ったふうに作用するということである。交通法規のように表層の制度ならすべての人々に同じ仕方でも働かかと思われる。けれども、常に歩行者でいる高齢者と車を乗りまわす人々とで恩恵と制約や不都合と

は違った仕方では分配される。(言い換えれば、違った価値事象として、人々に現われる。) 踏み切りは列車を優先する。まして、制度を機能させてゆくに不可欠な税等の負担において、人々の不均衡が著しくなかった社会がどの地域、時代でもあったためしがない。制度は、その発生においていわゆる権力の生成と富の分配、それらの整備・安定化、と結びついているからだと言ってもよい。ただ、制度一般が社会の安定に寄与するのは間違いなく、そこで、そこに制度の当然視が生まれると、それは先に述べたイデオロギーの生成とその意味の力による作用という事態として、制度と違って曖昧な文化の中へと溶け入ってゆく。

制度という枠組みは、人々にとって言うなれば外側の形式である。翻り、文化はさまざまな価値の混濁的な提示として曖昧であるが、そのあれこれの価値に関わろうとする人の営みを通して人の内に入り込み養分ともなるものである。また、制度は増殖し、変形してゆく固有の運動をもつが、その手続きの性格ゆえに硬直性をも宿命としてもつ。一方、文化は人々の営みを通して新たな価値事象を己に加えゆき、代わりに、人々の関心を引かない価値は力を失ってゆく、そういう無定形な変容のうちにある。

文化の曖昧さ、無定形さ、人の内面に溶け入るさまは、先に考察したフィジーの建物の屋根の色を再び例に取れば、色は宗教や民族のシンボルであって、小さな制度としての信号の色が指示記号であるのとは違う、というところにあることができる。シンボルは集団の文化、歴史、伝統につながれて、そして、つながれている限りで、人々にさまざまな想いを懐かせる。或るものは人にアイデンティティを供給する一材料にすらなる。

先に、屋根色の意味が本当に分かるには「社会の内部に入ってゆく」等の必要があると述べた。分け入り方は人によって千差万別であるが、それは内面化の過程としてしか果たされない。制度のもと人間であることに内面を持ちだす必要はない。制度によって制約されたり制度を利用したりする行動の形式が問題であるだけである。そして、だから或る社会の一員ではなくとも、人は制度面を通じてその社会と適切に関係をもち得る。しかるに、或る社会ないし集団の文化に馴染むとき、それはその文化(諸価値の総体)で規定されている限りの社会ないし集団の一員となつてゆくとも言わなければならない。ただし、一員であるとか一員ではないとか、きっぱりとした線引きなど、実はありはしないのであるが。集団の形成を考えるには、ほぼ同じような価値意識を通して結ばれる絆の強さという要素を考慮する必要があるであろう。

ここで、仮に建物の屋根の色と宗教との対応に関する法律が施行されることを想像してみよう。これは制度化だと言える。けれども、おそらくうまくゆかない。建物と宗教との結びつきを生き、活かしている人々は、その結びつきを維持はしたいが、それでもそれは強制されるものではないし、それに或る曖昧さも残しておきたい、何もかも割り切れるものではない、との想いを懐くだろう。手続き化(ないし形式に押し込めること)に抗う要素の部分にこそ、結びつきに活力を与えるものがある。その要素は、これまでの歴史を通じて培われたもの、伝統であったり想い出であったりして人々の内面に入り込む。だから、信号の色と違って屋根の色は、人々の行動を導くのみならず愛着や誇り、とくに苦さなどの諸感情を掻きたてもするのである。そしてその種の感情的な要素の響き合いが、宗教が一つの価値として生活の中に入り込んだ文化―他のさまざまな価値も含めた混濁、人々が関わっていかうとすることができるとする諸価値の提示としてある文化―の総体に或る漠たる結合を与え得るし、感情を懐く個人の側には、当人のアイデンティティ生成に幾許かの手助けをするであろう。

屋根色と宗教とのつながりも、信号の色による交通様態の指示も、人為的なものである。だから、その人為の継続がなければつながりも色の意味も消える。だが、前者の場合、人為とは、つながりを一つの表層の現われとしている或る深い諸価値を生きることそのことであり、後者では、信号の色の指示に従う形式の行動だけ、誰もがその形式において合致すればよい行動だけでしかない。

〈注〉 屋根の色：「フイジーで、赤い屋根はヒンズー教徒の家や学校、緑はイスラム、黄色はシ-

ク教徒が住む家や集会所であるそうである。」(同書より)

問 本文中で筆者が述べる〈文化〉の内容に適合するものを次の中から二つ選べ。

- a 社会集団がもっている共通だが曖昧な価値意識
- b 人々の感情や関心によって変容されてゆく価値
- c 社会の安定化に寄与する深くて総体的な価値事象
- d 人の営みによって枠組みが変形してゆくような価値
- e 不安定なシンボルによって提示されるような諸価値
- f さまざまな社会的ニュアンスをもっている価値体系

【解説】

◇本文の構成

第一段落【導入】

形式段落1

フィジー社会の屋根の色と信号のもつ意味

第二段落【制度について】

形式段落2～4

信号を例として

- i 制度は単純なルールと複雑なルールから成る。
- ii 制度の目標は明快な秩序を手続的に構築すること。
- iii 制度の機能は人々の行動の枠組みである。
- iv 制度は結果的にイデオロギーを生成し人々を規定する。

第三段落【文化について】

形式段落5～9

屋根の色を例として

- i 文化は曖昧で無定形で人の内面に溶け入るもの。
- ii 文化の理解は自己内面化することで果たされる。
- iii 文化における同じ価値意識が集団の絆となる。
- iv 個人の感情的要素の響き合いが文化に結合を、成員にはアイデンティティを与える。

【要旨】

制度は人々の行動の枠組みの機能をもち、さまざまな価値の混淆的な総体である文化は、その価値への関わりを通じて人の養分となる。文化はまた、伝統や想い出などの感情的要素によって集団の成員を結合させ、個人のアイデンティティ生成をも手助けする。

【解答】

b・f

形式段落5 「文化は人々の営みを通して新たな価値事象を己に加えゆき、代わりに、人々の関心を引かない価値は力を失ってゆく」によりbは○。

また、フィジーの建物に入って自分がどう振る舞えばよいか分かるには、形式段落1に「社会の内部に入って諸々の価値が織り成す体系の贅々のさまざまなニュアンスを嗅ぎ分けることができる」ことが必要だとあるので、fの「社会的ニュアンスをもっている価値体系」は○。

a 「曖昧な価値意識」は×。文化は曖昧だが、価値意識は明確である。

c 「社会の安定化に寄与する」のは制度。

d 「枠組みが変形してゆく」のではなく、価値事象が変容してゆくのである。

e 「不安定なシンボル」は×。シンボルははっきりしている。